



まずは館長による縄文講座で「なぜ、縄文村でカキ養殖なのか？」を知るところから！宮戸島に縄文人が住み始めた当初（7千年前）からカキを食べていたこと、海辺から大量のカキ殻とともに、カキを剥くための骨べらが見つかり「カキ剥き」をしていたと推測されることが紹介されました。

講座後はいよいよカキ縄作り。地元里浜の漁師さんお二人に教えていただいたながら、カキの稚貝がついたホタテの殻をロープにはさむ作業を行いました。

例年、代表者が海へ行き、カキ棚へ縄を吊るしてきますが、今回はお天気も良かったため全員が船に乗ることに。皆さんが作った縄を漁師さんがきつちりと棚へ結びつけ、作業は完了！

今回吊るしたカキ縄は、漁師さんに大切に管理していただき秋に収穫します。初参加の組が多かった今回「船に乗ってカキ養殖を知れて感動！」、「秋の収穫が本当に楽しみ！」と大興奮の様子でした。



カキ養殖体験開催！

4月3日（日）、今年度初のイベント「カキ養殖体験①種付け」を開催しました。コロナ感染症の影響で、種付けはじつに3年ぶりとなりました。この日を楽しみに、13組43名の皆さんが集まりました。



02 完成!!



01 ロープの擦りをはずして間に殻を挟む。

稚貝がついたホタテ7個を選んで挟みます。海に落ちないようにぎゅっと固定します。



03 海へ!

丈夫に育つまで仮殖棚に吊るします。この日は干潮でカキが半分海から出ていますが、ここがポイント！環境の変化に適応して丈夫になるそう。



「革帯」(矢本横穴出土) が市指定有形文化財に!

このたび、矢本横穴(古代の人々のお墓)から出土した「革帯」が、東松島市の有形文化財(考古資料)に指定されました。革帯は平成26年の東日本大震災後の復旧工事に伴う発掘調査で、6体分の人骨や直刀・馬具・鉄鏃などの副葬品とともに出土したものです。一緒に出土した土器や人骨の年代からみて、革帯は7世紀後半(飛鳥時代のおわり)から8世紀前半頃(奈良時代のはじめ)のものと考えられます。

革帯は朝廷から位を授かった貴族などの官人が、儀式などで正装するときに腰に巻く革製の帯(ベルト)です。帯には「鏝」と呼ばれる飾り(巡方、丸鞆)が並び連ねられ、鏝の材質や数、大きさ、帯の太さで官位の差を示しています。

指定された革帯は、巡方4点、丸鞆8点のほか、ベルトのバックルにあたる鉸具、ベルト穴のハトメ金具(猪目状の円

形金具)2点、帯尻に付ける鉈尾からなります。帯本体の革も一部残っていました。革帯は役所の跡や関連する遺跡などから稀に出土することはありますが、飾り金具が1~数点見つかる程度で、帯そのものが残ることはありません。現存するものとしては、奈良東大寺の正倉院宝物に数例残されていますが、本資料は発掘された資料で全体が推定できる唯一のもの。

本革帯は従七位相当の官人のものとみられます。金具は銅製で漆塗り、帯はウシの革を絹糸で縫い合わせたものであることも明らかになりました。当時の鑄造や漆工、縫製の技術を知るうえでも重要であり、当時の石巻地域を治めた丸子・道嶋一族との関わりや赤井官衙遺跡群と都とのつながりを示す大変貴重な資料です。



市指定文化財「矢本横穴出土の革帯」

GWは縄文村であそぼう!!

縄文体験・体感WEEK!

予約不要 4/29~5/1 5/3~5/5

時間 1・5日... 10:00~15:00
その他... 9:30~15:00

入館料+各種体験料
5/1,5/5は無料DAY!

毎日できます! ■火おこし(¥150)
■まがたま(¥400)
■シカ角ストラップ(¥400)
■丸木舟作り(¥0)
■貝塚ツアー(¥0) 10:30、13:00

日替わりメニュー

4/29 コハクのアクセサリ ¥1,200
樹脂の化石「コハク」を削ろう。
縄文の釣り針づくり ¥500
鹿角を削って釣り針を作ろう!

4/30 イノシシの土鈴づくり ¥300
粘土でかわいいイノシシを作ろう!
5/4 う!(後日お渡し)

5/3 コハクのアクセサリ ¥1,200
樹脂の化石「コハク」を削ろう。
ヤマザクラのストラップ ¥500
サクラの樹皮を織込み作ります。

春の一大イベント! 縄文・宮戸まつり

5/22(日) 10:00~15:00

縄文村と宮戸島を楽しむ春のおまつりを開催!
縄文体験や丸木舟作り、フォトラリーで縄文村を満喫! 3年ぶりによさこいも披露されます。

NEW! 大浜田湿地観察会

アフアンの森・松島自然の家・縄文村がコラボ! 大浜田湿地に生息する植物の数々を観察します。